

疎開前友と交しし住所録幼き字のまま本郷區くのまま

向丘 高野 伸子

寝押しせし襷ひだスカートひるがへしマズルカ踊りし少女のわれ等ら

向丘 三宅 あき子

金木犀また巡り来しその香り遠回りして追ひかけ行かむ

小日向 内野 仙也

賜りし命尊び朝毎の目覚めを謝して吾れは生きつぐ

千石 小出 風沙子

暁のあと一秒の微睡みに鳥のさえずりやさしく聞こゆ

水道 菅井 茂子

三十を過ぎた息子が満月に早く出いで来ことさそいにきたり

水道 高木 マリ

雲上のスカイツリーに合掌すよろず萬の神に一つ加えて

小石川 荻原 和夫

わが街に植物園ありて木々多し蝉は生まれて勢ひ鳴きけり

大塚 加藤 喜雄

桜薔薇紫陽花コスモス花巡り時の流れは特急の如し

本駒込 鈴木 たまき

山並みに夕映もえてきらきらと世界遺産の中尊寺の空

小石川 白鳥 茂子

俳壇

佐怒賀 正美 選

邯鄲かんだんや聞こえぬと言ふ夫つまの闇

西片 小林 貴美子

蓑虫やひとり遊びをしてをりぬ

音羽 森田 幸子

介護受くる身へ梨多く剥かれけり

向丘 武田 時夫

明日には思ひ出となる鰯いわしぐも雲

向丘 三宅 あき子

落蟬のコンクリートに翅はねを灼やく

白山 藤井 優子

雨止んで猫が砂搔くそぞろ寒

小日向 内野 仙也

老木に寄り添い燃ゆる曼珠沙華まんじゆしやげ

根津 小林 暢夫

繁る草も少し置かん虫の声

向丘 高野 伸子

知床の胴のあたりに秋日差す

本郷 田中 靖三

香焚いて筆滑らかに秋の朝

春日 波多江 淑子